

事業所における自己評価(公表)

児童発達支援

公表: 令和3年5月

事業所名 乳幼児親子教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である。	○		時間に合わせて部屋の使い方を分けている。	今年度は密にならないように配慮したが厳しい面がある。 空いている部屋を使い密を避けていた。 基準は満たしたいが、理想はもっと広いほうが良い。
	②	職員の配置数は適切である。	○		基準以上の人員配置をしている。 日により事業所全体で調節している。	基準以上の配置をしていてもさらに人手を必要とする場合がある。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている。	○			階段があるため送迎時に大変な方がある。 部屋の使い方は分かりやすい構造になっている。 大規模な修繕が出来ないことは小さな工夫をしている。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	○		保育中でも口に入れたものはすぐに洗っている。 一日の最後は使ったものをすべて消毒している。	コロナ禍でより一層の消毒清掃を行っている。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			職員会議の中で周知を行っている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。	○		第三者評価をうけている。	改善できそうな項目から順次取り組んでいる。 第三者評価等で提示された意見など丁寧に応えていると思う。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	○			ホームページで公開している。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。	○		3年に一度第三者評価を受けいている。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している。	○		研修を受けた職員からの報告の場を設けている。	年三回の合同職員会議で研修を行い、最低年一回は外部研修会への参加が決められている。
適切な	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している。	○		アセスメントも含め学期に二回の保護者を行っている。	アセスメントシートを基に行っている。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している。	○			アセスメントツールを全職員(パート職員含む)で共有するまでには至っていない。

は 支 援 の 提 供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている。	○		保護者面談にて必要な項目を考え加えている。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている。	○			振り返りを行っている。 毎日振り返りを行っているが、クラスごとの話し合いを行うためには時間の捻出が難しく工夫が必要。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている。	○		必ず月初めに話し合っている。	チームと言った形態ではない。 毎月のリーダーを中心に行っているクラスにより話し合い方が違う。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	○		繰り返しが力の繋がらないため、意図的に繰り返すこともある。	変化が苦手な子どもも多数いるので他の子どもとの兼ね合いが難しい。 毎日の反省で細かく話し合っている。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している。	○		毎日の反省で子どもの姿を多方面から捉えている。	しっかりと話し合っている。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	○		全員が一同に会することは難しいため、スケジュールボードなどを使い、必ず目を通すように共通理解をしている。	必ず時間を取ってということではないが各自日誌などの記録に目を通し、スケジュールボードなどで一日の流れや役割分担を確認している。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	○		毎日振り返りを行い、記録を付けている。	細かく話し合える雰囲気が良いと思う。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	○		事業所全体、クラス全体として記録を取ると共に個別の記録も毎日つけている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している。	○		保護者面を学期に二回行っている。	モニタリングでの内容を伝えてもらい役立っている。
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している。	○		クラス担任、個人担当者が参加している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている。	○		保健所からの問い合わせに答えたり連携した支援をしている。 江東区内の保健所保健師と年に2回会議を行っている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている。	○		区内で行っている連絡会や勉強会に職員が参加している。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている。	○		個々の主治医の把握はしている。 協力医療機関は整えている。 東部療育センターと通所児童に関する情報交換をしている。	

関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	○	電話や訪問により情報共有を図っている。申送りが丁寧に行われ見学も行っている。他園からの見学も行われています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	○	城東特別支援学校へ新一年生として入学する子どもの情報を共有する機会がある。申送り、学校見学、行事の見学など行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	他機関施設との会議に参加している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある。	○		今年度は行えなかった。いつまで続くのか分からないこの状況の中で、どのようにできるのか考える必要がある。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している。	○	各所長が会議へ出席し、職員会議で報告している。子ども家庭支援センターなどとの連絡会が行われている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	○	連絡ノートで家庭での様子を聞き取り、教室での様子も書き込みお返事している。	努力はしている。送迎時に話す時間をつくり、気軽に話せる雰囲気作りは良いと思う。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている。	○		職員が研修に参加しているが通所の保護者には実施していない。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	○	契約時に行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている。	○	年2回の面談の他日々の送迎時に行っている。面談などで説明し、同意を得られるようにしている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	○	個別面談などで話し合っている。送迎時や連絡ノートで相談に応じ、すぐに対応している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。	○	卒室をした保護者を交えての保護者会や父親によるおやじの会などがある。	今年度はコロナ禍で難しかった。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している。	○	今年度はコロナ禍で送迎を行うなど、個々に合わせて細かく支援している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。	○	毎月、おやこ教室NEWSを発行している。	

	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○	個人情報提供同書にサインをもらい、個人情報が書き込まれている書類は所定の場に保管し、持ち出し厳禁など決めている。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	○	各家庭の状況などを把握しそれに合わせた伝達をするよう配慮している。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている。	○		今年度はコロナの影響で難しかった。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している。	○	マニュアルは保護者に周知し、職員間では防犯訓練を行っている。感染症対応も細かに話し合っている。	様々なケースを踏まえた訓練をさらに行っていく必要もある。マニュアルの周知をしても詳しくわかってもらうには難しさがある。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	○	避難訓練を行っている。	もう少し回数を増やしていきたい。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している。	○	個別に医療カードを作成している。又年度初めに1人ずつの確認引き継ぎを行い把握している。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。	○	保護者から聞き取り全職員で把握している。子により医師からの指示書も受け取るようにしている。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している。	○	転んだ物にぶつかった、といったちょっとした事でも記録を取っている。	クラス間を超えて報告し合えるとよりよいと思われる。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	○	年に一回は必ず虐待防止委員会を開き話し合っている。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達計画に記載している。	○	契約書に載せ保護者への理解を得るようにしている。	子によっては個別支援計画に盛り込み、保護者理解を得るようにしていく。